

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：荒山林業 / on the Lake

活動地域：長野県大町市を核とした北アルプス地域の顔が見える経済圏

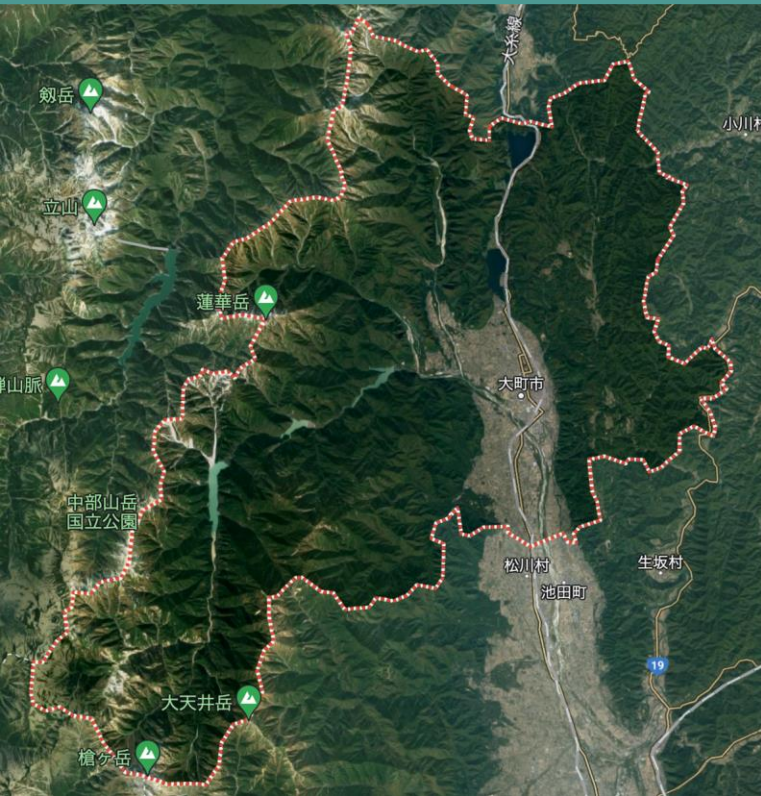
活動におけるテーマ

森と湖に囲まれて
きゃっきゃうふふす子 里山ノエスト2.1



本事業への関わり：2年目

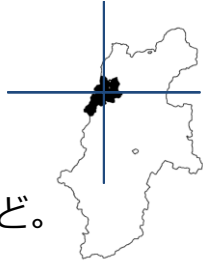
活動団体と地域の紹介



木町市・北アルプス地域

長野県の北西部に位置する内陸都市。

北は白馬村、東は長野市、南は安曇野市・松本市など。



市の西部に連なる3,000m級の山々が連なる北アルプスと

日本海側の内陸性気候による良質なパウダースノー、

市の北部には湖が3つ連なった天然湖・仁科三湖

(木崎湖・中綱湖・青木湖)があり、

豊かな自然とそれに紐づくアウトドア資源が豊富。

日本一長い信濃川水系の最上流部に位置する。



人口：25,009人（昨年同日26,237人）

自分が移住した2017年の28,255人から比較しても

加速度的に人口が減っている。かつ高齢化率は38.8%

面積：565.15km²（内可住地面積の割合27.2%）

森林面積は大町市で70%・北アルプス地域では84%

森林面積の7割が落葉広葉樹を主体とする天然生林



荒山林業

木崎湖畔にある持ち山で林業を営む自伐林家。

湖を起点としたPF・[on the Lake]を起ち上げました



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

森と湖できゃっきゃうふふしてたら内外の人の交流が生まれ、そこから新しいプロダクトやサービスが生まれ、大町ひいては北アルプス地域のブランド価値を高めていっている。田んぼに水が入り、森は健全な状態で循環し、湖で憩い、市民はここで暮らすことに誇りを持っている。

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

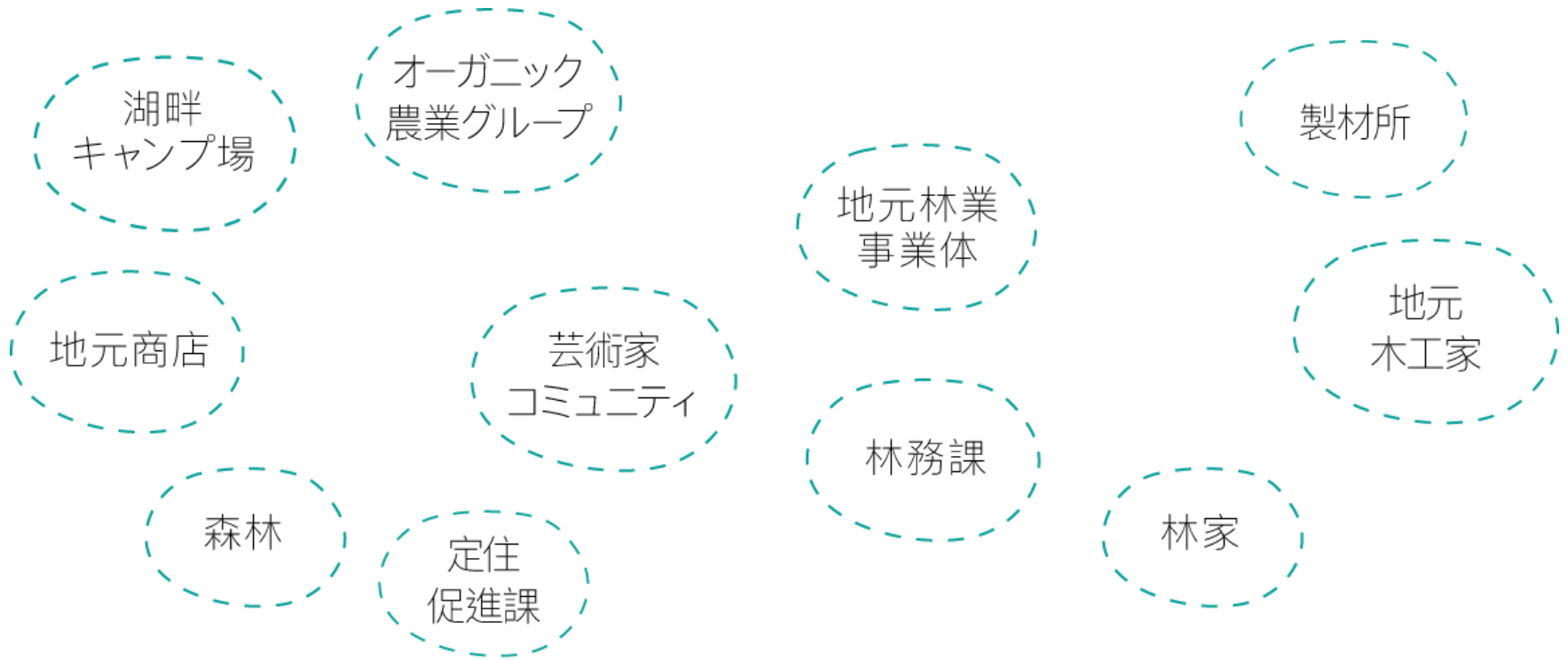
- ・ 各分野横のつながりの連携を強化していく。特に来年3回目の開催となる北アルプス国際芸術祭でもプロデューサーの北川フラム氏より森と湖の資源をもっと打ち出すべきとの話があったとのことで、何とか上手くつなげていきたい。
- ・ 地域材流通に関しては去年製材が地域内で賄えるようになったので今年度は乾燥を地域内に導入して顔が見える木工家さんから材の供給を始めたい。
- ・ 内外の人の交流のきっかけとなるカリキュラムを通して関係人口の増加を図りたい。

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- ・ on the Lakeカリキュラムの実施！
- ・ 木材乾燥を始めて顔の見えるプレーヤーに地域材を届ける！
- ・ 森林と他ジャンルのプレーヤーとをつなげる！

現時点の地域版マンダラ

現時点での体制



それぞれの取り組みを、何となく知っている状態

現時点の地域版マンダラ

現時点での体制



それぞれの取り組みを何となく知っている状態から、
企画単位で内外の人が交わり、お互いを知る場をつくる。



集まった人達から自然発生的にプロジェクトが生まれ、
プロダクトやサービスが生まれ、大町のブランド価値を高めていく。

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

- ・ 森林産業の遅れ（木材の地域内循環）
- ・ 耕作放棄地
- ・ 下請型の産業が多く自立型の産業が少ない
- ・ ここには何もないという認識
- ・ 未来へ向けて衰退していくムード
- ・ 人に頼ってはいけないという固定観念
- ・ ブランド認知がない状態
- ・ 若者の流出
- ・ 未来をつくるプレイヤーの不足

地域のありたい未来

- ・ 日常を楽しめて、ここに居続けたいと思えるバリュー（自然×人×コト）がある
 - ・ クリエイティビティを発揮する場所がある
 - ・ 森林・田んぼ・湖を活かした自立型・高付加価値型産業が発展している
 - ・ 生きていけると安堵できるゆったりした地域性
 - ・ 美味しい水が飲み続けられている
- ありがとう！

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

- ・ 大きくなくても地域内の人々がシビックプライドを持って食べていけている
- ・ 地域の既にある資源のポテンシャルを引き出し、大町をブランド化していく
 - ・ それによって内外のプレイヤーが自然と集まる“場”をつくる
- ・ プレイヤー同士の顔が見える有機的なつながりを生み出し、相互にコーディネートし合う
 - ・ そこから新しいアイデアやプロジェクトが自然発生的に生まれる

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 豊かな森林（面積の7割が広葉樹を主とする天然生林）
 - ・ 豊かな森林からくる美味しい水
 - ・ 三つの湖（木崎湖、中綱湖、青木湖）
- ・ 田んぼ（水田面積率85.2%、全国54.4%、新潟県88.8%）
- ・ 地元と自然を愛するローカルプレイヤー
- ・ 地域外のプレイヤー
- ・ 大町ファン

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2024年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



新たに加わってほしい
ステークホルダー

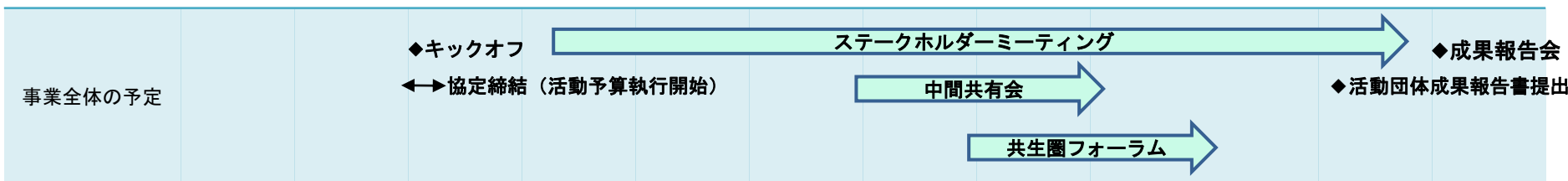
- ・ 拠点をつくっていくに当たってのブランディングできる人
- ・ 森林のことに主体的に関わる市民・行政
- ・ 道の駅構想を掲げている団体メンバー
- ・ 地域材を使いたい木工家さん・設計士さん
- ・ 中高生向けのアントレプレナー塾を運営している地元団体
- ・ on the Lakeの運営を担うメンバー
- ・ 森のリトリートに関わる人
- ・ 森林循環（水循環）を一緒に考える企業

想定している課題・阻害要因

- ・ それぞれの利害やスケール感の違い
- ・ 行政との連携
- ・ 主体者として一緒に動いてくれる仲間探し
- ・ 交流接点の少なさ
- ・ 大町市内で動いているプロジェクトの把握
- ・ 次年度以降の資金調達

年間スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



地域材活用

- ◆地域材活用の為の円卓会議
飛騨より広葉樹活用コンシェルジュ・及川さんに来て貰い意見を貰う (4/28)
- ◆地域材活用の為の円卓会議
製材勉強会 (6/9)
- ◆広葉樹活用フォーラム (9月頃予定)
- ◆製材マルシェ (時期未定・去年は11月開催)
- ◆次年度の方針会議 (SHミーティング?)

on the Lake (森と湖のPF)

- ◆Life on the Lake 夏のほとり
森と湖の滞在型カリキュラム (7/8・9)
- ◆Life on the Lake 秋のほとり
森と湖の滞在型カリキュラム (10/21・22予定)
- ◆Lab on the Lake 森と湖にまつわるプレーヤーでのトークイベント・ワークショップ (年2回開催予定)
- ◆次年度の方針会議 (SHミーティング?)

みんなの森と水のSDGs 未来ビジョン (森林ビジョン)

- ◆主体者候補を招いて第一回会議 (ファシリテーターの方を呼ぶ)
- ◆第1回市民参加型ワークショップ (8月頃予定)
- ◆第2回市民参加型ワークショップ (10月頃予定)
- ◆第3回市民参加型ワークショップ (12月頃予定)
- ◆第4回市民参加型ワークショップ (2月頃予定)

その他

- ◆国産広葉樹活用プロジェクト
- ◆北アルプス国際芸術祭 プレイメント第1回 (7/1)
- ◆年内に木材乾燥機を完成させて稼働開始する!!